

東北文教大学・東北文教大学短期大学部 図書館報

発行 東北文教大学・東北文教大学短期大学部附属図書館 〒990-2316 山形市片谷地515 ☎023-688-7544

目次

- 図書館と私…………… 1
- 私のおすすめ本…………… 3
- 平成25年度 図書館報告 …… 4

図書館と私

子ども教育学科准教授 菊地 と く

図書館には、忘れられない思い出がいろいろある。

学生時代、山形大学図書館に行き、閉架式というのに大いにとまどった。カードで書名や著者名を引き、職員に頼むのだが、図書館職員はぶっきらぼうだし、せっかく探した書物がこちらの求める内容に合わなかったりして、もう一度頼むのも気が引け、図書館に行くのが億劫だった。それでもどうにか『かげろう日記』についての卒業論文をまとめることができたのは、何ととってもやはり山形大学図書館のお蔭である。

☆

初めて赴任した学校で、担任したのが中学3年生だった。3年生4クラスの国語科の授業、そして自分のクラスの道徳と学級活動を担当すると、分からないことは次々に出てくるが、調べる時間がない。学校図書館も市立図書館もあったはずだが、どちらにもあまり行った記憶がない。必要な本は自分で買い、自宅で調べる、それしか方法がなかった。

教材研究は当日の朝4時から6時までだった。前夜のうちにやればいいが、疲れ果てて、帰宅するとひと眠り。ようやく起こされて夕食、入浴。自宅通勤で助かった。朝の2時間で教材を読み、プリントをつくり、7時ごろの列車に乗る。足早に学校に行き、ガリ版で刷る。そしてできたてのほやほやのプリントで授業をした。

説明文や小説の学習、漢字や語句、文法などはそれで

よかった。発問を工夫し、ただ考えさせるだけでなく学習活動の課題にしていき、まずは国語科らしい授業になっていった。しかし、作文の学習には、ほとんど困った。教科書にモデルとなる優れた作文が載っている。それを読解させただけでは中学生は文章が書けない。どうするか。それには、図書館だった。

2校目の学校は図書館が充実していた。司書もいた。ところが、生徒を図書館に連れて行くとうれしくて騒ぐ。司書はそれを苦々しく見ている。それで、「図書館では息で話すのよ!」などと指導した。

作文の指導は、書く内容を生徒に持たせなければならぬ。そのためには、ふさわしい課題を持たせて、図書館で調べさせた。習った歴史の中で調べたい人物を決めて調べ、教科書の文章構成をまねて書かせたことがある。これなどは、皆、生き生きと作文した。

こうして、まずは作文の学習から、授業における図書館利用が始まった。その後は、例えば「心にしみる言葉・心に引っかかる言葉」「ことわざに見る日本人のコミュニケーション」など、国語科のいろいろな単元で本や図書館を利用した。生徒がうるさくするたびに肩身の狭かった私も、司書と仲良くなり助けていただき、「こういう授業をしたいの。資料はあるかしら」と言うと、いろいろ探しておいてくれた。懐かしい思い出である。

☆

教育委員会勤務になり、あちこちの学校を訪問する機会ができた。村山市のある中学校では、一階の空き教室が2室続きで、図書室になっていた。10分間の休憩時間に生徒たちが次々に図書室に来て、百科事典やパソコンで調べていた。すぐに行って調べられる距離が好ましかった。

平成6年、小学校の校長になった。このころ、東北地区の図書館協議会があった。「今、図書館にコンピュータを置いている学校は？」と尋ねられ、私も挙手した。実はこの問いは、図書館の貸出・返却業務をコンピュータで行っているかという意味だった。私の学校は単にパソコンを図書室に置いているに過ぎなかった！

小学校では、子どもたちはよく本を借りに来た。図書室はそれなりに楽しい場所だったようだ。

☆

平成9年、中学校の校長になった。見ると、図書館は大きな校舎の、特別教室棟二階の端にあり、休憩時間も放課後も生徒の姿は少なかった。本の背も日に焼けたものが多かった。

図書館担当の教諭が、「図書館は今年も基本的に鍵をかけたのですが、いいですね」と言う。驚いて聞くと、生徒がめったに来ないので休憩室のようになり、管理しにくいからだという。

これは困ったと思った。図書費も公費は少ないし、保護者負担にも限度がある。教員も図書館に常駐することができない。生徒の図書委員活動にも限りがある。

そうこうしているうちに学校にいろいろな問題が生じ、校長として学校経営全体の見直しが迫られるようになった。中学校は勉強と部活動が二本柱だが、その両方に意欲がわからない生徒も見られる。そういう生徒も中学校生活がおもしろく思えるようにするにはどうするか。

悩み苦しみながら教職員とともに考え出したことは、勉強と部活動に加えて、学級活動や生徒会活動として地域に奉仕する活動を、ということだった。

生徒たちに考案させ、教職員が支援して、地域の人たちに喜んでいただくように。幸い、総合的な学習の時間なども始まり、活動がしやすくなった。大人側の支援組織も作り、予算も考慮した。学区の国道の草むしり、卒業した小学校に出向いてのガラス磨きやトイレ掃除。高齢者の独り暮らし世帯の庭掃除。生徒たちはいろいろ考え出し、生き生きと実行した。

それと並行して、私は地域の人たちに学校への協力を仰いだ。その一つが、図書館ボランティアだった。地域の婦人会の人たちが月に数回来てくださることになった。

その方々は前日に美容院に行き、いそいそと学校に来られた。仕事は書架の整理が中心だが、目に見えないこともたくさんしてくださった。笑顔とおしゃべりは私たち教職員も楽しかった。

あるとき、男子生徒が鏡をのぞいて髪を直していた。どうしたのと聞くと、これから図書館にあいさつに、と言う。図書館に入ると、「どこのアンチャや？」と聞かれており、家族の名を告げて自己紹介している。「おやおや、立派になったこと！」と言われ、にこにこしている。ナルホドナルホド。納得した。こんな風にして、図書館ボランティアの方々は私たち教職員ができないことを見事にやってくださった。図書館は、次第に利用者が増え、鍵も不要になった。

学校が落ち着くと、例えばトイレトペーパーなどの消耗品がぐんと少なくて済む。その分、図書費に充てるようにした。折から公費も増額され、図書購入も進んだ。

ただ、図書館が特別教室棟二階の端にあることはどうにもならなかったが、その後、校舎の大規模改修が行われることになり、「普通教室棟の真ん中に図書館を」という願いが実現することになった。私はその大規模改修中に定年退職したが、完成後の校舎を見る機会があり、とりわけ新しい図書館を見、そこで本を読んだりしている生徒たちを見たときはしみじみうれしかった。

☆

退職後の4年間、町立図書館の館長をした。小さな図書館だが、県内初とも言われるほどの歴史を持ち、町民に愛されている図書館である。

私は週2回の非常勤だった。少ない予算で、でも多くの町民の要望にいかに応えるか、次代の子どもを育てる活動としてどんなことをすればいいか、基本図書は備えたいし、郷土資料は充実したいし、などと工夫した。子ども向けの事業で大型紙芝居を公演したり絵本の読み聞かせをしたり、私も楽しんだ。

☆

さて、平成22年春の開学に伴い、本学にお世話になって今日に至る。本学の図書館の魅力は、なんといっても司書や職員の方々が親切で、レファレンス機能が充実していることだ。私が図書館に行くのはほとんどが授業の資料探しであるが、それを司書の方々は快く手伝ってくださる。待つ間、見るともなく見ていると、訪れる学生にも同じように親切にしてくださる。万卷の書や稀覯本があることも大学図書館には大事かもしれないが、学生にも教職員にも親切な図書館が、私にはよりありがたいと思っている。

図書館学生アルバイトの「私のおすすめ本」

本が好きで何事にも「やる気マンマン」のアルバイトの学生が選んだ図書を、ぜひ読んでください。学生たちの個性がでており、興味深いものがあります。図書館で所蔵しています。

では、図書館でお待ちしております。

鈴木 遥（子ども教育学科2年）

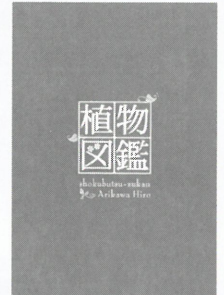
「植物図鑑」 有川 浩 著 角川書店 2009.6

私がおすすめる本は、有川浩さんの『植物図鑑』です。タイトルをみただけでは、ただの植物が書いてある図鑑かよ、と思うと思いますが、違います。

主人公の河野さやかは、どこにでもいる普通のOL。いつものように自宅に帰ろうとしたとき、行き倒れている一人の男を見つめます。「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか。咬みません。躰のできたよい子です。」その言葉に思わず拾ってしまった男は、家事万能のスーパー家政婦であり、重度の植物オタクでした。“いつき”という名前しか知らない男と、週末に近所で「狩り」をするちょっと変わった同居生活が始まりました。

ワクワクしたり、胸がほっこりする時もあれば、ちょっぴりほろ苦いこともある物語です。が、私が読み終わって一番に思ったことは「えっ、この料理食べてみたい！」。

この物語には身近にある野草を使った料理が数多く出てきます。とても美味しそうな料理ばかり出てくるので、正直おなかが減ってきます。最後のページに、物語に出てきた料理のレシピが載っているので、読み終わったら作ってみてはどうでしょう。



鵜沼千尋（子ども教育学科1年）

「天声人語」 朝日新聞論説委員室 編 原書房 2014.5

この本は、朝日新聞で100年以上にわたって連載中の名物コラムである『天声人語』を一冊にまとめた本です。事件・事故などに対する評論や、身の回りで起こった出来事を伝えるエッセイ、映画の感想など、その日に応じて様々な表現方法でコラムが綴られています。幅広いジャンルのテーマが扱われるため、時事用語やことわざ、詩歌などを通して、新しい言葉や表現を学べます。

さらに、大学や短大などの入学試験にもしばしば題材として採用されているので、受験生には特におすすめの一冊です。また、社会時事についてよくわからない方や、語彙力や文章力をつけたい方も、必読の一冊です。



鈴木晴佳（総合文化学科1年）

「大学生入門」 高橋三郎・新田光子 著 世界思想社 2010.4

私がおすすめる本は、高橋三郎さん・新田光子さんが書いた『大学生入門』という本です。

大学生活は小学校・中学校・高校などと比べて、違う点が多くあります。そのため、大学生活に慣れるのは大変なことです。この本は、履修登録などの大学生活で基本となるものや、レポートや筆記試験などについてまで、分かりやすく具体的に説明されています。私はレポートや筆記試験についての部分を目的としてこの本を読みましたが、他の項目についても詳しく書かれていて、とても役立ちました。実際に大学で教えられている方がこの本を書いているので、より実用的なことについて書かれていると思います。大学生活で分からないことがある人はもちろん、まだ大学生活に慣れていない人に役立つと思います。また、もう大学生活に慣れている人も、基本となるものを読んで基本に戻ること、これからの大学生活に役立つことがあるかもしれません。いろいろな場面で役立つと思います。ぜひ一度、読んでみてください。



安達真帆（子ども学科1年）

「べんとうべんたろう」 文・中川ひろたか 絵・酒井絹恵 偕成社 2012.9

この絵本は、ベートーベン作曲の『運命』をモチーフにしており、曲の中にある有名なフレーズの「ダダダダーン」が文章の最後に出てきたり、エリーゼのために弁当を作ったりしています。他にも、『田園』や『白鳥の湖』などクラシックの楽曲が出てきたり、チャイコフスキー茶やショパンのパンなど、有名な作曲家の名前になぞらえており、とても面白いです。また、星座の中にぎょうざがあったり、流れ星がうめぼしだったり、ダジャレも要所要所にあってとても愉快です。

絵本は子どもの読みものと考えがちですが、大人でも楽しめるものも沢山あります。これもその一冊だと私は考えています。読んでいくとくすりと笑え、上手に言葉を掛けているので、とても愉快です。読み終わるとほっこりした気持ちになります。絵本には独特の温かさがあり、子どもの頃を思い出して優しい気持ちになります。そんな絵本にふれて欲しいので、私はこの一冊を紹介しました。是非絵本の温かさにもふれてください。



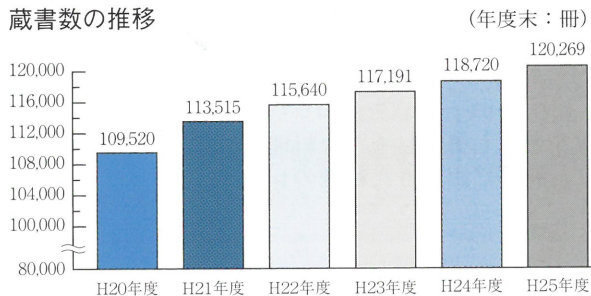
平成25年度 図書館報告

(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)

資料収集

図 書	1, 5 6 1 冊
学術雑誌	8 9 種
新 聞	1 7 種
紀 要	5 2 8 冊
A V 資料	2 8 点

蔵書数の推移



利用状況

年間入館者数

(人)

年度	年間入館者数
平成21年度	53,487
平成22年度	54,256
平成23年度	35,270
平成24年度	26,580
平成25年度	30,799

年間館外貸出冊数

(冊)

年度	年間館外貸出冊数
平成21年度	6,163
平成22年度	7,371
平成23年度	7,972
平成24年度	6,881
平成25年度	6,364

1人当たりの年間貸出冊数

(冊)

年度	1人当たりの年間貸出冊数
平成21年度	9
平成22年度	9
平成23年度	13
平成24年度	10
平成25年度	9

1日平均貸出冊数

(冊)

年度	1日平均貸出冊数
平成21年度	24
平成22年度	28
平成23年度	28
平成24年度	26
平成25年度	23

年間ビデオ・DVD貸出(館内)

(点)

年度	年間ビデオ・DVD貸出(館内)
平成21年度	533
平成22年度	560
平成23年度	507
平成24年度	415
平成25年度	259

貸出資料ランキング

<図 書>

書 名	著者名	貸出回数
1 学校の挑戦：学びの共同体を創る	佐藤学／著	75
2 はじめて学ぶヴィゴツキー心理学：その生き方と子ども研究	明神もと子／編著	39
3 アメリカの小学生が学ぶ歴史教科書：E J 対訳	ジェームス・M・バーダマン、村田薫／編	21
4 フィンランドという生き方	目覚ゆみ／著	20
5 競争しても学力行き止まり：イギリス教育の失敗とフィンランドの成功	福田誠治／著	19
6 保育いきいきパネルシアター	松家まきこ／著	15
6 室内あそび 50 使える！保育のあそびネタ集	井上明美／編著	15
8 すぐに弾ける子どものうたピアノ伴奏 115	安藤真裕子、多田まりこ／編曲	14
8 保育のピアノ伴奏 150 曲：子どもたちの歌いたうた：保育園・幼稚園の先生の声で選んだ	阿部直美／監修	14
10 くれよんのくろくん	なかやみわ／作・絵	13
10 図書館戦争	有川浩／著：徒花スクモ／イラスト	13
10 おぼけのレストラン	山本省三／さく：菅野曉美／え	12
12 みんなでうたおう！たのしいこどものうた大全集 202	永岡書店／監修	12
12 体育科教育学入門	高橋健夫〔ほか〕／編著	12
15 「こんなとき！？」の場面別手あそび：保育が楽しくなるアドバイスつき！：0～5歳	阿部直美／著	11
15 アレンジたっぷりペーパーサート	阿部恵／著	11
15 ピアノといっしょにこどもの定番ソング	ケイ・エム・ビー／編	11
18 手あそび指あそび	吉本澄子／著	10
18 0～5歳児の運動あそび指導百科	前橋明／著	10
18 さかになってなにな	せなけいこ／作・絵	10
18 わかりやすいあやとり百科	有本昭久／著	10
18 雨の日のかんたんあそび：毎日の保育をもっと楽しく！	頭金多絵／著	10
18 手あそび歌あそび：DVDのお手本つき：やさしいピアノ伴奏つき	小泉八重子／監修	10
18 色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年＝Colorless Tsukuru Tazaki and his years of pilgrimage	村上春樹／著	10
25 0～5歳の手あそび・指あそび	阿部直美／監修	9
25 がたんごとんがたんごとん	安西水丸／さく	9
25 THE 手あそび・歌あそびBEST 50+1：あつという間に子どもとなかよし	内尾眞子／編著	9
25 はらぺこあおむし	エリック＝カール／さく：もりひさし／やく	9
25 ポッケのワンピース	つちだのぶこ／絵	9
25 実習に役立つ表現遊び：つくってさわって感じて楽しい！：指導案つき	岡本拓子／編著	9
25 ぼくそらをさわってみたいんだ	さとうわきこ／作：岩井田治行／絵	9
25 おぼけのてんぷら	せなけいこ／作・絵	9
25 幼稚園・保育園の楽しい絵画あそび 12 か月：年少・年中・年長の年齢別で使いやすい！	くまがいゆか／著	9
25 幼児のあそび大図鑑：もっとあそぼう！：全国保育園のイチ押しあそび	あそび編集委員会／編	9
25 0・1・2歳のふれあいパネルシアター：子育て支援	せきわかこ／著：わけみずえ／絵	9
25 舟を編む	三浦しをん／著	9
25 男の子の脳、女の子の脳：こんなにちがう見え方、聞こえ方、学び方	レナード・サックス／著：谷川隼／訳	9
25 ロスジェネの逆襲	池井戸潤／著	9

学生からの主なリクエスト

<図 書>

夢とモノノケの精神史-平安貴族の信仰世界-	上野勝之／著
陽だまりの彼女	越谷オサム／著
なぜ若者は保守化するのか-反転する現実と理想	山田昌弘／著
みおつくし料理帖 八朔の雪	高田郁／著
みおつくし料理帖 花散らしの雨	高田郁／著
みおつくし料理帖 想い雲	高田郁／著
経済言語学論考	井上史雄／著
クマのプーさんと魔法の森	クリストファー・ミルン／作
プーさんの森にかえる	ディヴィッド・ベネディクトス／作
おひさまようちえんのひみつのともだち	斉藤榮美／作
ねずみくんおおきくなったらなにになる？	なかえよしを／作
ヘヴン	川上未映子／著
悲鳴伝	西尾維新／著
悲痛伝	西尾維新／著
思いやりの心江戸しぐさ	池田葉子／編著・絵：越川礼子／監修
しゃばけ	畠中恵／著
まんまこと	畠中恵／著
こいしり	畠中恵／著
けさくしや	畠中恵／著
ときぐすり	畠中恵／著
色彩学入門-色と感性の心理-	大山正、齋藤美穂／編
色彩心理学入門-ニュートンとゲーテの流れを追って-	大山正／著

<DVD>

フォレスト・ガンブ	ロバート・ゼメキス／監督
きせきのひと	アーサー・ベン／監督
博士の愛した数式	小泉堯史／監督